

憲法しんぶん 速報版
 発行 憲法改憲阻止各界連絡会議（憲法会議）

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
 ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2018年9月28日（金）

NO. 896号

本号3頁

沖縄知事選大激戦！

翁長知事の遺志を継ぐテニー氏勝利へ 最後まで全力を尽くそう！ 沖縄の友人・知人に支持を 広げにひろげてください！

大激戦・大接戦の沖縄知事選は、投票日まで2日となりました。辺野古の米軍新基地を強行するため、安倍官邸・自公勢力は国家権力総動員で県民に襲いかかっています。それに「負けるか！」と県民が次々と立ち上がっています。その県民とともに、私たちが支援を強めてたたかいぬき、辺野古新基地建設を許さないために、そして憲法9条改憲を狙う安倍政権に痛打を与えるためにも、知事選挙に勝利しましょう。



一方、大型で非常に強い台風24号が28日に千島諸島、29日に沖縄本島に最接近する見通しです。そのため、竹富島等では投票を30日から27日に繰り上げられ、また那覇市では知事選候補者のポスター掲示板が撤去される事態となっています。この事態に玉城氏の選対も期日前投票を呼びかけています。

このようなもとの、必勝期して、急いで、沖縄在住の友人・知人に電話等で支持を訴える、沖縄に知り合いがいる方に支持を訴えていただくようお願いするなど、あらゆる手立てを尽くし、最後まで奮闘しましょう。

<資料>

沖縄県内の医師・歯科医師140人が23日付の沖縄タイムスと琉球新報に出した意見広告

私たち医師は「撤回」を支持し、辺野古新基地建設に反対する

翁長県知事の遺志を受け継ぎ、誇りと尊厳ある沖縄の未来を築こう！

普天間基地の廃止・辺野古新基地建設反対・命を守る医師連絡会 代表 野村 誠 090-4470-9191

臨時国会での改憲発議を狙う総裁選3選の安倍首相！

安倍首相は10日、総裁選の演説で「憲法にしっかりと日本の平和と独立を守ることと自衛隊を書きこんで私たちの使命を果たして行こう」と述べ、記者会見では「秋の臨時国会を目指して議論を進めてもらいたい」とする一方、「必ず、やらなければならないという指示ではない。目標を達成できるかどうか議論を進めてもらいたい」と語り、「当選後の3年でチャレンジをしたい」とも述べ、新総裁の任期中の改憲実現に意欲を示しました。

そして、総裁選の結果は、安倍首相は議員票329、党員票224の合計553票、石破氏は議員票73、党員票181の合計254票。安倍首相が連続3選を果たしました。しかし、国会議員票で8割の支持を得ながら、世論に近いとされる全国の党員らの支持が5割半ばにとどまりました。首相陣営からは「ショックだ」「参院選が心配だ」との声が相次ぎ、自民党幹部は「地方の反乱だ」と語ったとのこと。首相が手にした新たな3年間は、波乱含みのスタートとなりました。

それでも、記者会見では前号で詳細に紹介したように、「次の国会に案を提出できるように党を挙げて取り組むべきだと申し上げてきました。そして総裁選の結果、力強い支持を得ることができたと考えています。結果が出た以上、この大きな方針に向かってみんなで一致結束をして進んでいかなければならない」「友党の公明党との調整を行いたい」等と語りました。自民党内だけの総裁選の結果なのに、あたかも国民の支持を得たかのような発言です。

しかし、安倍改憲案を待ち受ける大きな関門

しかし、そんなに簡単には臨時国会で改憲発議ができない状況が生まれています。

第一は、公明党が事前協議を拒否していることです。総裁選の翌日に公明党山口代表は「公明党とだけ調整を先行し、それから（改憲案を）出すことは我々としては考えていない」とクギを刺しました。そして、27日には、改めて、「自民党とのみ事前に協議をして、何か案を固めるというようなことは考えていない」「あくまで国会の憲法審査会の場で協議をしていくことが原則だ」と述べ、安倍総理が求めている憲法改正案を国会に提出する前の自民党と公明党の協議に応じない考えを示しました。



さらに、山口代表は、様々な世論調査の結果で憲法改正の優先順位が低いことを指摘し、「調査結果を見て冷静に対応する必要がある」と慎重な対応を求めました。

第二は、臨時国会では国民投票法改正案の審議から始まると思われませんが、テレビCM規制では立憲民主党の枝野代表は、「CM無規制なのは、ちょっとまずいという話の決着はついていない。まずはこの話の決着をつけるだけでも少なくとも来年の夏ぐらいいまでかかる」と発言しています。先の国会で何とか憲法審査会を動かそうと、国民投票法案の改正を持ち出して来た自民党ですか、逆に思い通りに進まない原因となりそうです。

第三は、自民党内でも慎重な対応を求める意見があることです。石破氏は総裁選で「9条改憲の優先順位は低い」と発言していましたが、総裁選後には「自民党員の方がスケジュールありきではないと申し上げた私の考えを支持してくださった。国民の気持ちとあまり違うことをやるべきではない」と首相の姿勢をけん制しました。また、憲法審査会の幹事の船田氏は「（首相が）ギアをあげて（改憲に）積極的な発言をした。同調することができない」と、総裁選では白票を投じました。さらに、審査会筆頭理事の中谷氏は総裁選で石破氏の推薦人でした。

第四に、臨時国会開会日は10月26日から1月程度と報道されています。短期間の臨時国会開催となるのでしょうか、すると9条改憲発議に向けた議論はほとんどせず、強行させざる得ない事態に追い込まれてしまいます。

このように大きな関門が臨時国会での改憲発議を待ち受けています。もう一つ付け加えれば、国民の多くが臨時国会への憲法改正案の提出に反対しています。

世論調査でも、「提出を急ぐべきではない」が68%

①朝日新聞9月8・9日調査

◆安倍内閣を支持しますか。

支持する 41 (38) 支持しない 38(41) その他・答えない 21(21)

◆安倍首相は、自衛隊の明記などを盛り込んだ自民党の憲法改正案について、次の国会への提出をめざす考えを示しました。あなたは、次の国会への提出に賛成ですか。反対ですか。

賛成 32 反対 49 その他・答えない 19

◆あなたは、森友学園をめぐる国有地の売却問題や、加計学園の獣医学部新設の問題について、安倍首相のこれまでの説明に納得していますか。納得していませんか。

納得している 14 納得していない 76 その他・答えない 10

② 読売新聞社 9月21～23日調査

安倍内閣の支持率は50%で、前回8月の50%から横ばい。不支持率は41% (前回40%)。そして、「安倍首相は、自民党の憲法改正案を今年秋の臨時国会に示したい考えだ。この考えに」、「反対」は51%で、「賛成」36%を上回った。

③日経新聞 9月21～23日調査

安倍首相は自民党の憲法改正案を秋の臨時国会に提出する考えを示しました。あなたは自民党の憲法改正案を秋の臨時国会に提出すべきだと思いますか、思いませんか。

提出すべきだ 24 (17) 提出を急ぐべきではない 68(73)

どちらともいえない 3(2) いわない・わからない 6(7)

◆このように、憲法改正案を秋の臨時国会に提出する考えについては「反対」「急ぐべきではない」が49%、51%、68%と回答しています。国民の多くがいわば「反対」の意志を示しています。石破氏も「国民の気持ちとあまり違うことをやるべきではない」と言っています。このように私たちがたたかえば、すなわち3000万人署名を早期達成させて「9条改憲などどんでもない」という世論を形成できれば、臨時国会での改憲発議は阻止できます。頑張りましょう。



日本国憲法の
値打ちを
まともな政治を!

10.14
**秋の憲法
大学習会**

安倍政権は
直ちに退陣!
9条改憲NO!

安倍首相は来年の参院選などの政治日程をみずえ、「秋の臨時国会に9条改憲案提出できるよう取りまとめ加速」と表明しました。改憲の動きを加速させようとしています。

しかし、私たちは、3000万全国統一署名のとりくみを軸にこの間、安倍政権を追い詰めてきました。先の国会でも改憲論議は全く進んではいません。

安倍政権退陣、9条改憲阻止、3000万署名の達成をめざし、情勢と課題をしっかりと学び、秋の大運動を推進していきましょう。



渡辺 治さん
(一橋大学名誉教授)

**「安倍9条改憲の
危険性と発議阻止に
向けてのたたかい」**

— 朝鮮半島情勢激変、
秋の臨時国会、参院選を見据えて —

日時
2018年
10月14日
13:30開場 14:00開会

参加
協力費
500円

場所
大阪市立中央区民センターホール
(地下鉄 堺筋線・中央線 堺筋本町駅下車 3号出口東へ徒歩2分)



大阪憲法会議 秋の憲法大学習会まで2週間となりました。

今回の渡辺さんのお話は、改めて3000万署名の新たな意義について現在の情勢と関連させて突っ込んでお話されます。

各団体・地域から多数の皆さんにお聞きいただきたいと思います。 <大阪憲法会議>

夏の憲法講座

講演と国会報告のDVD販売!

○講演 渡辺治一橋大学名誉教授 安倍9条改憲の危険性と、発議阻止にむけたたたかい—朝鮮半島情勢激変、参院選を見据えて—

○国会報告 穀田恵二衆議院議員・日本共産党国会対策委員長 市民と野党の共闘—国会からの報告

▶頒価 1000円 送料別

申し込み先

FAX03-3261-5453

電話 03-3261-9007

憲法会議